

# ほくとクリニック病院

人権センターニュースNo.104 より

(平成 23 年 5 月 31 日訪問)

平均在院日数 37.8 日(平成 23 年 5 月 31 日現在)

## 病院全体

平成 20 年に設立。入院患者 44 名のうち大阪市民が 42 名。任意入院 13 名、医療保護 31 名。任意入院で閉鎖処遇を希望する患者を受入れる。日勤帯は 4 階に 3 名、3 階と 5 階に 2 名ずつ、夜勤帯は 4 階に 2 名、3 階と 5 階に 1 名ずつの看護師がいるとのこと。

平成 23 年 6 月から隣のマンションの一室を使って訪問看護ステーションを開始する。退院後も病院の PSW 等と連携した地域生活支援ができるようになり、入院期間の短縮が図られる可能性がある。

## 地域との関係

自治会と懇談会を開催したり、地域のイベントに職員が 7~8 名で参加したり、患者からの希望があればマンツーマンで付添って参加することもある。

開院に反対していた住民は、「患者が飛び出してこないか」「救急車のサイレンの音がうるさくて眠れなくなるのでは」等を気にしていたが、最初にクリニックとして開業して夜間救急に対応する中で、救急隊には、病院に近づいたらサイレン音を消す、道路上に停車せず敷地内に車を入れるようにしてもらう等によって、苦情は減ってきているとのことだった。

## 金銭や私物の管理

金銭は原則として全員が自己管理。4 階ではベッド毎に上下 2 段に別れた鍵付のロッカー(無料)がある。上の段は財布等を入れていて、鍵の開け閉めは職員が行い、下の段は入院時の私物(持込禁止物品)を入れていて、基本的には退院時まで開けない。電話代をチャック付ビニール袋に入れて持っている患者がいて、寝る前には鍵付ロッカーに戻して職員に施錠してもらうとのことだった。3 階と 5 階では床頭台に鍵付の引き出し(105 円/日)があり、使っている患者と使っていない患者がいた。鍵は患者が管理をしていた。退院時まで使わないものを入れる私物庫はデイルームにあった。買物は、近くのコンビニが院内に物品を持って販売に来る。

## 面会

病棟入口に面会者用の鍵付ロッカー(無料)と金属探知機があった。荷物を預けて病棟に入るのは「面会者がライターや薬物等を患者に手渡しすることを防ぐため」との説明だった。面会は月~土曜日は午後 1 時~4 時、日曜祝日は午前 9 時~午後 4 時。

## 人権委員会 (病院の説明)

委員長は医師。外部委員としては毎月ではないが、顧問弁護士が参加。意見箱の意見は看護以外の部署の職員 2 名で回収し、月 1 回の委員会で検討される。回答は病棟全体に関するものであれば掲示することもある。投書した人が了承すれば病院の機関紙に載せることもある。これまでに意見箱に入った意見として、食事への意見、職員の対応についてなどがあつた。

## ソーシャルワーカー

病棟担当 4 名、認知症疾患医療センターとしての電話対応等の担当 1 名、訪問看護、外来の対応も行う。

## 病棟の様子

清掃が行き届いていてトイレも含めて臭いはせず、清潔で、全体的に静かだった。デイルームの大きなスタンドグラスの窓から光が入って明るく感じられた。詰所近くの台の上にお茶の入ったやかんがあつた。食事はデイルームでも病室でもとることができる。

デイルームの壁がくぼんだ所に緑色の公衆電話があり、椅子があつた。そばには意見箱と用紙があり、病院独自の「医療における患者の権利に関する 8 原則」と「入院中の精神障害者の権利に関する宣言」が掲示されていた。

詰所は、4 階はオープンカウンターだった。3 階と 5 階は、職員が不在になることが多いとのこと、カウンター上は透明のシャッターが閉まっていて、その横に 4 階詰所につながるインターフォンがあつた。詰所前には医師と看護師の顔写真と名前が掲示されていた。

## 病室

半数が個室。2 人部屋、4 人部屋ではベッド周りにカーテンがあつた。各ベッドには冷蔵庫やテレビのついた床頭台があつた。

## トイレ

ウォシュレット付の洋式トイレだった。木目調の扉の高さは 180cm 程度で、扉の上は 50cm 程度空いていた。臭いがこもらないように上部に窓が開き、その内側に穴のたくさん開いた金属で覆いをしてあつた。

## 3 階 女性 19 床

OT が終わって数名がデイルームで話し始めると、それまで病室にいた患者もデイルームに出て来て、急ににぎやかになった。

訪問時、診察室で診察が行われ、また別の医師が病室を順番に回っていた。一度病室から出た医師

を呼び止め、言い忘れたことを伝えている患者の姿も見られた。看護師は病棟と詰所を何度も行き来していた。4階から移動してきた患者の荷物を運んだり、その患者や他の患者からの質問や反論に、丁寧に答えていた。

#### 患者の声

「ここは普通の病院(複数の患者の声)」「診察は診察室や病室で」「床頭台の鍵付引き出しはお金がかかるので私は使っていない」「携帯電話は持ち込めない」「4階にいたときはもっとしんどそうな患者も多かった。自分ももっとしんどかった」「ずっと同じところ(病棟)にいるのはしんどいので、OTは息抜きになる」「何人かの患者と職員とで屋上に上がることもある。空を見ると気持ちがいい。買物やタバコ、散髪を我慢しているのがつらい。あとちょっとの我慢」「ごはんがやわらかい」「私はおいしいと思うけど」「不満はない。看護師も先生も親切にしてくれる。食事も美味しい」「娘にここに入れられてしまった。早く退院したい」「お風呂は部屋の順に入る。せかされることなく、ゆっくり入っている」

#### 4階 男女 12床

他の階の患者が、インターフォンで職員を呼ぶ声がデイルームに聞こえていた。この階のみ患者は全員が病院指定の病衣だった。医師が各部屋を回って患者と話しをしていた。

全てが個室。2室では家族が面会に来て、家族も本人も落ち着いた様子で話をされていた。

シャワー室は、本人の希望や状態によって使うそうだが、拘束帯を干したり、歩行器が置かれていた。入浴は3階と5階の浴室を使う。処置室には酸素管等があった。合併症の重篤時や電気ショック前の麻酔時に使うそう。電気痙攣療法は症例により用いるが、年に40件程度である。

#### 隔離室(4室)

トイレ周りには天井までの高さの囲いがあり、トイレの扉は病状によって開いたままにも患者自身が開け閉めできるようにもなる。前室には洗面台や床頭台があった。廊下側にある磨りガラスの窓は、職員が外からスイッチを押すと透明になる。訪問時、2室は廊下と前室の間の扉、前室と隔離室の間の扉に鍵がかけられていた。1室は空き、1室は昼間開放でその部屋の患者はデイルームにいた。

#### 患者の声

「薬の説明はしてもらっている。説明の紙を持っている」「グループホームの見学に行った」「食事の量はちょうどいい、味も美味しい、カロリーも分かるので安心」

#### 5階 男性が中心 19床

基本は男性病棟なのだが、女性の入院患者が多いため、今は2名の女性がいる。そのため、夜間は看護師以外のスタッフをもう1名配置している。デイルームにいる患者は少なかった。清掃会社の職員が3名程、各部屋や廊下をモップ掛けしていた。

#### 患者の声

「ふつうの病院やね」「風呂は週3回」「2回目の入院」「テレビカードは持っている」「私は生活保護だから不要だが、他の人は入院時に20万円いる。105円の床頭台の鍵付引き出しは使わない。食事は美味しい」

#### OT(作業療法)室

ビーズの手芸、クロスワード、塗り絵、ヘッドホンを付けての音楽鑑賞など各自が自分の選んだ作業等に集中しており、とても静かだった。金魚の水槽があり、入院患者の誰かが交代で毎日世話をしてその記録ノートがあった。自由に飲めるコーヒーがあった。

#### 積極的な取組など

- ・デイルームには観葉植物がいくつも置かれていた。
- ・病室のエアコンの温度設定は患者が部屋毎に行っていた。
- ・ベッドサイドにはナースコールがあり、患者からは「ナースコールがあるのがいい。安心できる。今はもう安心できているので押さないが、入院した当初は不安で何度も何度も押していた。だいたいは『どうされましたか?』と部屋をのぞきにきてくれた」との声があった。
- ・家族が病室で面会をしていた。

#### 検討していただきたい事項

特にありません。

#### 精神保健福祉資料より(平成22.6.30時点)

43名の入院者のうち統合失調症群が20名(47%)、気分障害が14名(33%)。

入院形態は任意入院11名(26%)、医療保護入院32名(74%)。在院期間は全員が1年未満。